

鷹栖町まちづくりセミナー 集落点検 他出子の多くは近場で暮らしている

■講演

演題：「世帯と家族は違う（T型集落点検から見えるもの）」

講師：熊本大学名誉教授

一般社団法人トクノスクール農村研究所理事長

徳野 貞雄 氏

■グループディスカッション

- 「あなたの暮らしをどうするか（今後の目指すべき地域福祉・地域のあり方について討議）」
- ・ T型集落点検として図式化してみることで、「家族」ということが改めて認識することができる。世帯としては少なくとも、家族として考えたときに意外と恵まれている環境だと気づく。世帯の数値だけでなく、今回の家族の気づきから、地域で暮らし続けることをどう実現していくか考えていけると良い。
 - ・ 近場に子どもが暮らしていると、確かに何かあったときにすぐ対応できる。そのためには、近所の人がすぐに連絡がとれるように、近場に暮らしているその人の家族の連絡先を知っていることも大切だろう。町内会でそうした取り組みが進められると良い。やはり町内会を基盤とした地域づくりも大切。
 - ・ 親の出身地が違う場合は、安定することが難しいケースも考えられるので、その際に地域や行政での支援をどうしていくか考える必要がある。そうした実態も、点検をすることで見えてくる。
 - ・ 家族のなかで孤立しているケースもあると思う。そのときは地域など、ちがうアプローチを考えなければならない。
 - ・ これまでの一般的な農村に対する考え方、人口に関する捉え方と、違った視点で見ることができる点検手法だった。1つの情報だけではなく、こうした多様な考え、視点を住民に広めていき、地域の暮らしについて考えていくことが必要。なので、今回の手法や視点についても、今後どのように地域に伝えていくか、考えていくべき。
 - ・ 漠然と少子高齢化への不安を抱いているのではなく、今回のような点検により具体的な暮らしの実態を掴んで、そこから地域の将来を考えるプロセスが大切。